

概要

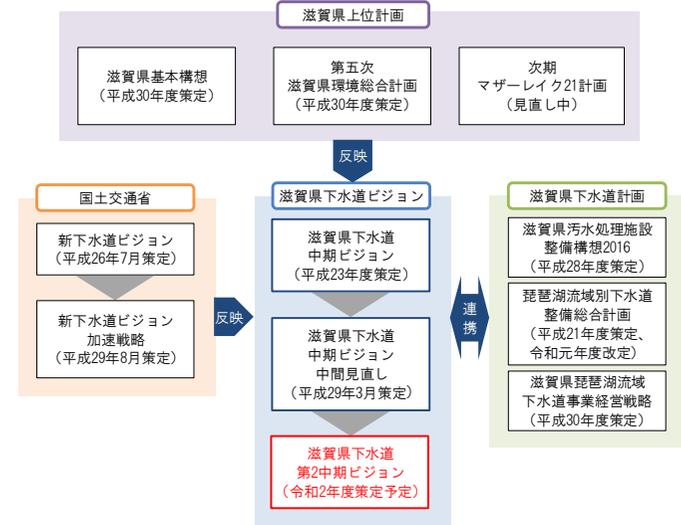
①目的

- ◆下水道事業の課題や必要とされる施策を整理し、将来像、施策の方向性を示すとともに、県、市町の取り組み方針を示す。
- ◆第1期中期ビジョンで設定した目標に対する達成度の評価を行い、顕在化した課題を抽出するとともに、社会経済情勢の変化などを考慮した新たな中期ビジョンを策定し、今後の滋賀県下水道事業の方向性を定める。

②計画期間

令和3年度から令和14年度まで（12年間）

③計画の位置付け



現状の課題と背景

①社会情勢の変化

- ◆執行体制の脆弱化 ◆老朽化施設の増大 ◆気候変動（災害リスクの増大）

②第1期中期ビジョンのフォローアップにより顕在化した課題

- ◆人材育成、人手不足
- ◆維持管理、建設に関する技術の整理・体系化の実施不足
- ◆イメージアップの活動不足
- ◆温室効果ガス排出量の削減率の低下 ◆汚泥リサイクル率の低下

③関連計画の方向性

関連計画	国		滋賀県
	新下水道ビジョン		基本構想、環境総合計画
計画期間	— (長期計画)	平成26年度から10年程度 (中期計画)	平成29年度から 5年程度 平成31年度～ 令和12年度
キーワード	循環型社会の構築に貢献、強靱な社会の構築に貢献、新たな価値の創造に貢献、国際社会に貢献	選択と集中、産官学の連携 広域化・共同化と他分野との連携、人材の育成と効果的な配置、ナレッジマネジメントの活用	官民連携、広域化 防災・減災、下水資源

ビジョンのコンセプト

①コンセプト

みんなで地域と琵琶湖を健康に

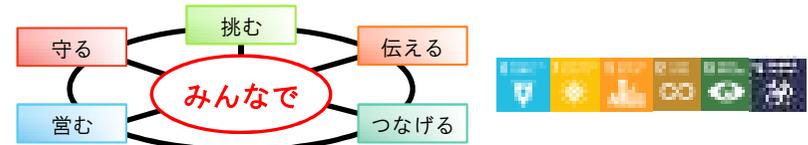
～あたりまえの安心と新しい強さに向かって～

②コンセプトの意図

- ◆「みんなで」→上位計画の「多様な主体の参加」に倣い、行政だけでなく、他の主体とのコラボレーションを大切にしながら進めていくことが必要
- ◆「地域と琵琶湖を健康に」→持続可能な社会が、地域と琵琶湖にとって「健康な状態」であると考えられる。下水道を有効な資源として捉え、活用していくことで資源循環を促進し、持続可能な社会を作り出す。
- ◆「あたりまえの安心」→どのような状況下（自然災害時や施設の老朽化）においても使える下水道を目指し、使用者に安心を与える。
- ◆「新しい強さ」→将来の社会情勢（人口減少、予算の縮小）や気候変動（温暖化、自然災害の多発）の変化に対して、継続的に下水道事業を進めていくため、現状維持の「守り」に徹するだけではなく、「下水道資源の有効利用」「省エネ運転」「創エネ」「組織体制強化」などの新しい挑戦により、対応（適応）できる「強さ」を身に着ける。

ビジョンのテーマと施策

①5つの大テーマ



②各テーマの施策メニュー

挑む	① 下水道リノベーション	② しがCO <sub>2</sub> ネットゼロ
	③ 老朽化対策	④ 自然災害への対処
守る	⑤ 琵琶湖の環境保全と下水道	⑥ 組織体制など経営基盤の強化
	⑦ 効率化と人材育成	⑧ 県・市町間のパートナーシップ
営む	⑨ 異業種異分野コラボレーション	⑩ 下水道の国際展開
	⑪ 下水道情報の発信と市民参加	